「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」（第5回）議事要旨

日　時：2025（令和7）年1月 27日（月）18 時 00 分～20 時 00 分
場　所：東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室 21（傍聴等：オンライン）
出席者：伊藤座長、朝日委員、遠藤委員、越塚委員（オンライン）、
　　奥野委員（渋谷区）、小西委員（財務局）、谷内委員（都市整備局）

議事要旨

（まちづくりの方針（案）について）

【伊藤座長】

- 一昨年２月より検討会が開始され、今回が５回目。前回の議論も参考に整理した、「当地区におけるまちづくりの方針（案）」が本日の主な議題となる。
- まちづくりの方針（案）の議論後の予定についても事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

- 本日は、これまで検討会で議論いただいた内容なども参考に、当地区におけるまちづくりの方針（案）を作成したので、ご意見をいただきたい。
- そのご意見なども参考に、都として、「神宮前五丁目地区まちづくり方針（案）」を取りまとめ、その後、パブリックコメントの実施に向け、手続きを進めていきたい。
- パブリックコメントでいただいたご意見などを整理し、都として「神宮前五丁目地区のまちづくり方針」を取りまとめ、公表することを予定している。

（小林委員から事前に寄せられたご意見）

- マネジメントについては、マネジメントがどうあるべきかをこの段階から決めることは難しいと思うが、同じ目標に向かって、行政も民間も縦割りにならないように運営していくことが重要。
- リアルに関しては、当地区では、リアルな体験が重要であり、子供が絵本や演劇を体験する際にも、リモートによるデジタル体験ではなく、デジタル技術なども使い

ながら、この場所でリアルに体験できるということが大切

- 「智の創造拠点」の実現に向けては、将来像に掲げているように、体験や交流から、何か新しいものを生み出していくことが大切。生み出すプロセスを支援できるような場所であるとよい。

【伊藤座長】

- 将来像実現に向けた導入機能が８つ掲げられているが、民間事業者からの提案を受けて定期借地による都有地活用を想定しているが、例えば青山通り沿いのにぎわいの創出や青山の立地特性も考慮した業務機能など、民間事業者による提案等では、今掲げられている機能以外も想定しているということでよいか。

【事務局】

- まちづくりの方針（案）に掲げている導入機能については、将来像の「智の創造拠点」を実現する上で、構成する基本となる機能として、最低限、想定し得る機能として整理したものである。青山通り沿いのにぎわい創出に寄与する、商業機能、文化・交流・教育機能や青山エリアのクリエイティブ産業などに寄与する業務機能等も想定されると考える。また、事業運営段階等において、時代の変化や多様化するニーズへの対応として、柔軟な運用も考えていく必要があると考える。本方針（案）に記載されている以外の導入機能も提案可能であることが読み取れるよう工夫したい。

【朝日委員】

- 将来像として掲げられている「智の創造拠点」という表現は、コンセプトに合致した良い案と考える。
- Ｐ.４のマネジメント体制の役割イメージについては、参照事例を見ても、大規模なエリアづくりになったときに、そのアイデンティティが出て来はするが、わかりにくいところがあると感じる。例えば、施設レベルになるが文化行政では、プロデューサーとしてプロジェクトの方向性を象徴するような方を選出するような場合がある。従来の再開発のように事業者が下支えするというよりも、今回提案のあったような継続的にプロデュースしていける仕組みを考えることは良い。

- 起業支援機能について、エリア価値が高まりプライスアウトしてしまう事象や、エコシステムとしての良さが都市再生の中でバランスが崩れてしまい、もともといた企業が居づらくなり、出て行かざるを得ないといった都市再生上の課題も考慮したほうが良い。
- Ｐ.１６の国連大学について、日常的に国際的なルーツの人が馴染んでいたり、留学機会の供給増加やアニメ産業などを通して国際化を感じる等、国際化・国際交流の在り方や、それに対する子供世代・若者世代の認識が変化してきているような状況も踏まえた連携のあり方が生まれると良い。
- Ｐ.１８の創造図書館のコンセプトは良い。インターネットの検索で知識を得ることは容易になっており、創造性に結びつかないこともある。一対一の情報のニーズに対応するだけでなく、リアルで一所にあるものを眺めるだけで生まれるものなど、意外な発想、意外性を育める場となることが強調されると良い。

【事務局】

- マネジメント体制について今後も検討を深めていきたいと考えている。今回提示している機能以外にも民間提案等による多様な機能を想定しており、必要な分野の専門家が適宜関われるような仕組みを検討していきたい。
- 国連大学については、現在地でまちづくりに協力いただけるという方針を示されているなかで、広場でのマルシェ開催によるにぎわい形成や国連大学のライブラリー、ギャラリーなど外部の人が気軽に訪れる場所の存在であったり、国連大学の強みを生かした取組について調整していきたい。
- スタートアップ支援については、都の施策として有楽町のＴＩＢなど設置されているが、この地に特徴づけられるようなスタートアップ企業、また子どもも関わるようなあり方など事業者提案を含めて検討していきたいと考えている。

【越塚委員】

- Ｐ.４のマネジメント体制について、プロデューサーだけでなく、地元を代表する方も含めたり、運営やサービスを提供する側だけでなく、施設の利用者の視点も入れられると良いと感じた。また、子供のことが上手く考えられるように世代や性別のダイバーシティを意識した体制になると良い。

- キーワードとして、誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」というコンセプトは良いと感じた。智という言葉のなかに、人々が滞在したくなる場所の要素として、デザイン、アート、芸術という意味も含められるとよいと考える。
- Ｐ.１７の子供に向けた機能のなかで、ワークショップが含まれている部分が良いと感じた。図書館、劇場などにおいて、一方的に本を読んだり、舞台を見たりするだけでなく、子どもが能動的に参加できる場があると良い。
- 国連大学について、子供向けの国連イベントが開かれると良いと思う。例えば、アメリカの大学生の場合、就職人気ランキングに国連が含まれている。日本ではあまり考えられない。当地区は世界感覚が持てる場所と考えるので、神宮前から世界を身近に感じられるような場所となり、国連大学とも連携したイベントが開催されると良い。
- この場所に図書館を整備することは良いと感じる。最近は、国内・世界中にミクストユース、いわゆる複数の異なる機能を配置して、相乗効果を狙う開発手法で参考になる良い図書館がたくさんできている。
- 最先端技術として例えばＡＩや自動運転などの技術が投入できると良い。一般的には博物館にそのような機能を持たせることが多いが、博物館は特殊な箱の空間なので、この地では、都市空間、生活空間に溶け込んだ形でデジタルテクノロジーが体験できると良い。

【事務局】

- まちづくりを進めていく上では、地域の方や施設利用者、子供などと意見やアイデアを交換するスキームについても検討していきたい。
- 智の意味合いとしては、芸術・文化を広くとらえて、デザイン、アートなどもその対象として考えている。
- デジタル技術については、当地区の整備が完了することには、その時代の最先端の技術革新が想定される。その際に最先端を学識の先生方の意見等を踏まえながら検討していきたい。
- 国連大学については、世界中から国連大学には研究者や学生などが集まっており、そのような特徴を生かしながら、取り組みを調整していきたい。

【伊藤座長】

- 越塚委員からご指摘いただいた内容は、まちづくりの方針（案）のなかに含意されていると思うが、明示されていない内容も多いと感じる。表現について工夫し、盛り込める内容は盛り込んでいただければと思う。

【遠藤委員】

- Virtual&Realという視点について、図書館機能と同様に、劇場機能もリアルな物としてどのように作っていくかということが重要。場としての機能を考えた際に、P.19にあるような劇場や文化を楽しむ人の視点が強く、文化的な営みの中で生きている人の視点が若干薄い印象。例えば、練習する場や何となくたむろできる場などが、劇場のリアルな場としてあるとよいと感じた。
- Open＆Flexibleという視点については、余白が足りないと感じた。多様な機能を盛り込むことで、余白がなくなってきている。子供向けの機能は、余白の取り方が重要で、何もないからこそ自分で考えることもある。緑地や広場などのオープンスペース自体が子供にとってその役割を担うことが期待される。
- 本方針（案）に提示されていない機能の組み込み方についても考え方があった方が良い。提示されていない他の機能を受け入れる余白性を、どのように本方針（案）が持つのかという観点から追加していく機能を考えていくことが重要。それがFlexibilityに繋がる。開発を進めていくなかで、その時々に柔軟に考える中で必要な機能がある。それを受け入れる余白性を考え方として持っておくべき
- 細かい指摘として、Ｐ.１７の子供の内容で「父親も参加しやすい親子サロン」という表現については、これからの時代に合わないと思われるので、父親を特出せずに、親子という括りで良いのでは。
- Ｐ.２２の景観の考え方について、「施設整備も含め、時代の変化やニーズに対応できるような冗長性・可変性も考慮」という表現について、具体的に景観形成の考え方として何を指すのかイメージできなかった。可能であれば説明を補足いただきたい。

【事務局】

- 劇場機能については、図書館や色々な機能があるというメリットをいかし、演者も

含めた発信者が来たくなるような空間となるよう検討を深めたい。

- 余白については、例えば広場の作り方として子ども向けの遊具を揃えるということではなく、何もない場所から遊びを創造していくための空間形成を検討していく。そのようなニュアンスがわかりやすくなるよう表現を追加していきたい。
- Ｐ.１７の子供の内容で「父親も参加しやすい親子サロン」という表現の見直しについては承知した。
- Ｐ.２２の景観形成の考え方については、段階的な整備のなかで、当初定めた計画にとどまらず、時代のニーズに合わせた変化に対応していくことも含めた表現として記載している。

【遠藤委員】

- 景観形成の考え方については、計画的な見え方になってしまうので、記載場所を変えても良いのではと感じた。

【事務局】

- 劇場機能についてご指摘いただいた部分については、文化・芸術を発信する場として、発表する場・体験する場としての機能をまちづくりのなかに落とし込んでいきたい。

【奥野委員】

- 渋谷の強みとして、クリエイティブコンテンツ、エンターテインメント産業などが挙げられるが、導入機能への盛り込みとして印象が薄くなってしまっていると思う。
- 劇場機能について、渋谷ではヒカリエにシアターオーブ、パルコ劇場などリニューアルされており、周辺開発で多用途に使えるホールなども整備されている。劇場機能については、周辺開発やすでに導入されている劇場の状況や機能も鑑みて、この場所にふさわしい内容を検討してはどうか。
- マネジメント体制については、あくまでも例とのことだが、専門家として挙げられているのが子供や図書館という観点が例示されているが、クリエイティブコンテンツ産業やエンターテインメント産業の専門家も加えた方が良い。

- 渋谷区にはスタートアップ支援の部署があり、今後、情報交換していければと思う

【事務局】

●エンターテインメントやクリエイティブコンテンツなど当地区で想定される分野の専門家が必要に応じて加わっていくことも想定しており、今回、専門家の例示にエンターテインメントを追記していきたい。

【小西委員】

- 事務局から提示したコンセプトは、多様な機能間の連携を図ることで初めて実現できる。官民連携によるマネジメント体制について、作る側の視点に偏っていたことを認識した。利用者の視点や子供の視点を踏まえながら、マネジメント体制を検討していきたい。

【谷内委員】

- マネジメント体制は、今回のプロジェクトにおいて重要な取組と考えている。今回は、網羅的に提示できていない状況だが、事業の具体化にあたり本日いただいたご意見を参考に引き続き検討していきたい。
- 概念図については、その他の機能の提案余地も感じられるような表現とし、時代に応じフレキシブルに、常に発展していけるような場にしていきたい。
- 子供や利用者などの意見を取り入れ方についても、引き続き検討していく

【朝日委員】

- 遠藤委員からのご意見のうち、余白の重要性については、とても共感する。P.12のOpen＆Flexibleという視点において、ニーズを満たすためのFlexibleという色合いが強いようにと感じる。計画・機能を考えるうえで、ニーズを満たすこと、インプットするということが必ずしも創造性を育むうえで有効ではないかもしれない。余白を計画することが重要なのかもしれない。創造性とは、という概念について検討を深めていけると、“Open”や“Flexible”の捉え方につながっていくのではないか。

- 「誰もが～」という表現については、神宮前五丁目のエリアを訪れてみると若者の存在感が強い。子ども、女性、起業家というキーワードが出てくるが、「誰もが～」、という対象を考えるときには、若者の意見も聞いてみた方がよいと感じた。

【事務局】

- まちづくりを具体化する中で子供をはじめ、幅広い年代の若者も含め、広く意見を聞くことを考えている。

【谷内委員】

- Ｐ.２２の配置図について、今回資料においては周辺の特性について記載しているものの、敷地内は色をつけていない。その意図としては、一般的なにぎわいゾーンや閑静ゾーンといったかたちではなく、創造・交流・憩いなどの今回のプロジェクトの特性や敷地の高低差などをいかしたゾーニングを検討してもらいたいということである。

【伊藤座長】

- 機能間の相互連携の重要性は強調されているが、マネジメント体制だけでなく、空間の側面からも考えておいた方が良いと考える。施設ごとに管理区分で分断されてしまうところを、マネジメントで連携していくことは考えられるが、間の空間で機能を緩やかに調整・融合させていくような考え方もあってもよい。各機能が交わるところで何が起こるのかを想定した、間の空間の考え方がありそう。
- Ｐ.１８にある都立中央図書館のこれまでのあり方と今後について、中央図書館の調査研究に役立つ豊富な資料などはそのまま当地区の創造・交流図書館に維持されるのか。
- 図書館のなかでは、すべてが交流空間というわけではなく、メリハリが必要と考える。図書館のなかでも、静かに集中できるスペースと創造・交流スペースを兼ね備えたメリハリのある空間があるとよいと思う。

【事務局】

- 現在、有栖川にある都立中央図書館の江戸・東京に関する貴重資料などを含めた豊富な蔵書などは維持されると聞いている。

【伊藤座長】

- 民間事業者から提案を募るということなので、提案する側の事業者にまちづくりの理念が伝わるような方針の表現としてほしい。エコシステム、能動性、余白の重要性など重要なご意見があったが、もともと理念としては含まれていても伝わりきらない部分があると感じた。
- Ｐ.８の経緯のなかで、「都心部に残された東京の成長を支える重要な用地」と表現していたときは、経済成長という意味が含まれていたと思うが、改めて見返すと、深化した成長という意味で、それが「智」という言葉に凝縮されているように理解をした。そういう内面的な成長・成熟した成長をしていく都民であり都であるということが上手く反映された方針になっていくとよい。

（今後の進め方）

【事務局】

- 今後の予定については、これまで検討会で議論いただいた内容なども参考に、都として、「神宮前五丁目地区まちづくり方針の案」を取りまとめ、パブリックコメントの実施を予定している。

  パブリックコメントでいただいた意見などを整理し、都として「神宮前五丁目地区まちづくり方針」を取りまとめ、公表する予定。

以上